

## 長時間ビデオモニタリング脳波が有用であった不思議の国のアリス症候群の一症例

◎江口 碧<sup>1)</sup>、宇木 望<sup>1)</sup>、倉重 彩<sup>1)</sup>、田辺 一郎<sup>1)</sup>、於保 恵<sup>1)</sup>、中村 拓自<sup>2)</sup>、大枝 敏<sup>1)</sup>、副島 英伸<sup>1)</sup>  
佐賀大学医学部附属病院 検査部<sup>1)</sup>、佐賀大学医学部附属病院 小児科<sup>2)</sup>

【はじめに】不思議の国のアリス症候群 (Alice in Wonderland syndrome: AIWS) は、童話「不思議の国のアリス」にちなんで命名された症候群であり、身体図式障害を中核症状とし多彩な視空間および時間知覚障害などを伴う症候群で、臨床症状に基づき診断される。AIWSの原因として、片頭痛 (17.5%)、EB ウイルス感染症 (14.5%)、てんかん (2.4%) などがあり、原疾患の治療をおこなうことが重要である。今回、長時間ビデオモニタリング脳波によって後頭葉てんかんが AIWS の原因であることが明らかになった症例を報告する。

【症例】10 歳男児。片頭痛 (9 歳～)、忘れ物が多い、活動性低下、多弁、注意散漫、易刺激性などの症状有り、3 か月前より巨視症、小視症、遠隔視などの視覚症状が出現し AIWS と診断された。頭部 MRI は異常なし。持続時間は数分から数十分で朝に多く、頭痛などの随伴症状や前兆はなかった。EBV-IgG 20 (+), EBV-IgM (-), EBV-ER < 10 (-), EBNA 20 (+), EBV-DNA 定量 検出せず、EBV は既感染パターンだが慢性活動性 EBV 感染症

は否定的であった。

【脳波所見】ビデオモニタリング脳波では、背景活動は 9Hz の  $\alpha$  波で、発作間欠期脳波では右中心部 (C4, P4) に棘波を認めた。記録中に突然、見ているものが近くなったり遠くなったりする視覚症状が出現し、同時刻の脳波では発作の数分前から両側後頭部に連続性に 5-6 Hz の  $\theta$  律動を認め視覚発作の消失にあわせて消失した。

【治療経過】VPA の内服を開始し、視覚発作は消失した。

【考察】今回、長時間ビデオモニタリング脳波によって視覚発作時に両側後頭部に脳波異常 ( $\theta$  律動) を確認できたことで、後頭葉てんかんの診断がついた。後頭葉てんかんの典型的な症状は視覚症状であり、本症例における AIWS 症状の原因と考えられた。AIWS は原疾患により治療方針が全く異なるため、原疾患の鑑別が重要である。本症例では後頭葉てんかんと診断され、適切な治療につながったことから、長時間ビデオモニタリング脳波の有用性が示された。

【連絡先】佐賀大学医学部附属病院 0952-34-3258